

36-3 有明海干潟環境の改善・回復に向けた対策工とその効果

沿岸域環境科学教育研究センター	教授	滝川 清
環境システム工学科	助手	田中 健路
技術部環境建設技術系	技術官	外村 隆臣
アジアプランニング(株)		増田 龍哉
農林水産省九州農政局		森岡 三郎
国土交通省九州地方整備局		酒井 勝

本研究では、有明海の干潟環境の改善・回復策として、数種の対策事業を現地で実施し追跡調査を行った。「干潟耕耘」ではORP値の増加が見られ、空気の強制混入を行うと1回の耕耘で約1月間の効果があること、底生生物では巣穴数の増加や下層で生物数増加等が確認できた。「人工干潟の創生」では、人工池内で地盤が次第に軟弱化し始めており、冬季にもかかわらず多毛類の生息、エビ、アミ類や海藻の存在等が確認され、野鳥が飛来するなど徐々に生態環境が形成され始めている。「なぎさ線の回復」では、盛砂の地形はH.W.L.を中心に安定してきて“なぎさ線”が創生され、数種の生物の棲息が約1カ月後には確認されるなど、良好な底質環境が形成されつつある。いずれの干潟改善策も、その効果が期待できる結果が得られた。

(第50回海岸工学論文集 pp.1226-1230, 2003年11月)